

Greeting

本日は株式会社ムジカ・チェレスタ主催 オペレッタ「メリー・ウィドウ」にて登場を賜りまして、誠にありがとうございます。メリー・ウィドウは世界中で一番上演回数が多いオペレッタとして、大変人気がある有名な作品です。弊社はこれまで日本ではあまり上演されないオペレッタを取り、その隠された魅力を皆様にお伝えすべく活動してまいりました。

この座ののもっとも有名な作品をムジカ・チェレスタならではの楽しさと観客の皆様にお届けすべく挑戦させて頂きました。世界中で様々な名公演がされている作品ですのでハラハラドキドキを致しております。今回の挑戦の目玉は、演出家・俳優として芸能界で活躍の小野寺文氏を演出に起用させて頂いた点です。オペレッタ演出が初めて、楽譜を聴かないと事でしたが、彼の鋭いセンスと人格に魅了され、必ず今までのメリー・ウィドウとは一味違う新鮮で素敵なものを一緒に創造できると確信し、楽譜や作品の理解などはムジカ・チェレスタ演出部としてサポートさせて頂きながら、二人三脚で作成して参りました。その方針を理解してキャスト・スタッフも一致団結し協力し合いながら稽古に臨んでくれました。プロ・アマチュア・オペレッタ初体験・米寿を迎えた方まで、様々な仲間が集結し、心を合わせて今回の舞台が作られております。ここでは文章をお読み頂いているお客様（あなたです）も一人の参加者として、一緒に空間を笑い、手を叩き、共感してくださいませ（よね）。それが生の感動体験であり、エンターテインメント・クラシックの真髄だと私は考えます。そんな舞台を創り、皆と共にパフォーマンスできることを心から幸せに思い、舞台に携わってくださる方全てに、ここにあらためて感謝申し上げます。皆様と一緒に、今かこの瞬間の一瞬を共に体感し楽しみたいと思います。さあ、間もなく幕が開きますよ！準備はよろしいですか??



株式会社ムジカ・チェレスタ
佐藤智恵



指揮
山崎勇太



演出
小野寺文

Cast



ハンナ・グラウバル
赤池 優



ダニロ・ダゴヴィッチ伯爵
新井健士



ミルコ・ツェータ男爵
吉武大地



ヴァランシエス
佐藤智恵



カミーユ・ド・ロジオン
川出康平



カスカー・グロ
堀内丈弘



ラウル・ド・サン・ブリアン
中尾 遊

Story

第1幕

舞台は1900年頃のパリ。通がバルカン半島の小国、ボンテヴェドロ侯国の公使館では、大侯殿下の誕生日を祝うパーティーが開かれていた。そこでは、高齢の裕福な銀行家と結婚してすぐに未亡人となり、資産2千万フランを所有することになったハンナ・グラウバル夫人のことで話が持ち上がる。公使のツェータ男爵は、ハンナが外国人と再婚してその財産が国外に流出することを恐れ、国民である書記官ダニロと結婚させようと画策していた。そんな中、ツェータの妻ヴァランシエスはフランス人のカミーユから熱烈に言い寄られており、惹かれてはいるものの男爵夫人という立場のために困惑していた。(この後、ヴァランシエスが「愛している」と書かれてしまった扇子を置き忘れたことがきっかけとなる)ハンナが到着し、カスカー、サン・ブリアンたちプリジヤンはハンナと金を手にするため次々に口説くが、お金当てる寝言葉に夫人は飽き飽きした様子。一方で、公使ツェータ男爵は部下ダニロにハンナをパーティーに呼ぶよう命じていた。ダニロとハンナは以前恋人だったものの、身分の違い(ハンナは貧しい平民の生まれ)によって引き裂かれた過去があり、実は今でもお互いに惹かれ合っているのだ。しかし再会を果たしても、ハンナは自分の想いに素直になれず、ダニロは「金目当て」と思われぬよう距離を置いているため、ツェータの期待とは裏腹にぎくしゃくしてしまうのだ。

夜会では無関心を装うダニロにハンナからダンスを申し込むものの、ダニロはその権利を1万フランで譲ると言い出し、我先にと言いついて男性たちは皆呆れて立ち去っていく。しかし、これはダニロの策略で、ハンナと2人きりになると、進んでワルツを踊るのだった。

第2幕

パーティー翌日の夕方。ハンナ邸では夫人主催でボンテヴェドロ侯の祝宴が開かれている。そこでは、ダニロがライバルであるカミーユの弱点を探るべく、カミーユの筆跡で「愛している」と書かれた扇子の持ち主を探していた。様々な夫人に尋ねる中で、その夫たる目玉をよそに恋にいそむ女性とそれぞれの夫婦の人間関係が明らかになっていく。一方ハンナとはまだ気持ちに明るいかにしないもの、他愛もない会話で恋仲だったころの雰囲気を感じる。

そんな中、ヴァランシエスは「貞淑な人妻」であると断りつづ、カミーユとハンナ邸のあやまやへ入っていくのだった。そこへツェータがエグジュと共にやってくる。危うく不倫が発覚しそうになるが、中から出てきたのはカミーユとハンナだった。そして2人は突然婚約を発表する。それを見たダニロは衝撃を受け、憂さ晴らしに行きつけの酒場マダムへ去っていく。ここでハンナはようやくダニロが自分を愛していると確信するのだった。

第3幕

ハンナはヴァランシエスたち協力のもとダニロの行きつけである酒場「マキシム」風の演出でダニロを喜ばせる。ダニロはカミーユとの婚約を発表したハンナへの想いを抑えられず、ハンナに再婚を撤回するよう迫る。果たしてハンナはどう答えるのか……、そしてヴァランシエスにかけられた疑惑の結末はいかに……。



エグジュ
藤川鉄馬



ボグダノヴィッチ
山下 直



シルヴィアース
Yurino



プリチャム
本間正裕



ブラシコウワ
青野景子



クロモウ
鳴坂仁志



オムク
関根がおりん



ドド
柏木陽子



ジュジュ
田中麻衣子



フルル
依田真虹



クロロ
三浦みやび



マルゴ
中島晶子



執事
仁賀広大



ピアノ
田邊安紀恵



ヴァイオリン
横山久梨子



チェロ
中原絹枝



コントラバス
深町 萌



パーカッション
稲瀬祐衣

Staff

- | | | | | | |
|----------|-------|-----------|------------|---------|---------------|
| ■プロデューサー | 佐藤智恵 | ■音楽アドバイザー | 安藤由布樹 | ■衣装助手 | 青柳智子 |
| ■舞台監督 | 下條高裕 | ■振付 | 田中麻衣子 | ■広報デザイン | マーブルデザイン |
| ■音響 | 五十嵐優 | ■積古ピアノ | 樋口めぐみ、前田裕佳 | ■制作 | 株式会社ムジカ・チェレスタ |
| ■照明 | 針谷あゆみ | ■衣装 | 美月逢花 | | |

Special Thanks

- | | |
|-------|--|
| ■台本協力 | 柴山三吉、吉井淳 |
| ■訳詞協力 | coecolare (Nr.9)、柴山三明 (Nr.3・Nr.4・Nr.9・Nr.15) |
| ■衣装協力 | ロイヤルエスコートグランプリドレス部、一般社団法人 きもの竜鳴倶楽部 |